

地方史研究現地座談会

本会は去る二月十二日大野郡三重史談会と共催で、由緒ある同町内山蓮城寺において地方史に関する臨地座談会を開催した。出席者及び当日の座談の内容は左の通りである。速記録不充分のため、発言内容の明瞭でない所があり、中には真意を誤り伝えた所もないとは言いがたい。それらの文責はすべて記者にある。こうした会が各地で催され、本会と地方会員とが密接な連絡をもつて研究を進め、いよゝこの方面の研究熱が全県下に盛り上るようになればと考え、この会を先づ三重町で開いたようなわけである。

出席者 (敬称略順序不同)

(現地側)

伊東東、土生米作、大觀慈長

羽田野清、芦刈正史、伊藤己入、高尾

真一、神志那武雄、神田一、児玉政敏

上ノ内兵馬、森田久生、足立昭一、足

立英生、芦荻正治、深田泰三

(大分側)

久多羅木儀一郎、兼子俊一、

半田康夫、立川輝信、中野幡能、三木

秋俊、渡辺澄夫

司会 本日は地方史研究会の最初の試みとして、現地座談会を開催する事に致しまして、

地方史研究現地座談会

た所、地元側史談会では、伊東さん、土生さん種々御奔走下さつて、盛大に開会する運びとなつた事を深く御礼申し上げます。先づ座談会の順序をどのように運んで行くか地元側としても種々問題をもつてゐる事と思ひますので、一応御意見をきかして頂きます。

A 三重町では町史を編纂中なので、それを中心として問題を広げて行つたら如何でせうか。

司会 それではやはり、古い時代から順を追つて問題を展開する事に致しませう。先づ石器時代の研究について、現地側の調査の状態を御報告頂きませうか。

先史・原史時代の三重

B 私は中学一年生の時、磨製石器を拾ひそれから此の方面に興味を持ちはじめ、現在まで集めたものは石器土器数百点に及んでいる。三重附近で縄文・彌生・古墳時代にかけて遺物の多く出る所は経塚原で、なお菅尾のお宮からも縄文が出る。

C 経塚原というのは、経塚でもあつた事から起つた地名でせうか。

B いやそれはない。経塚という以上、昔はそうしたものが出たかも知れないが。こゝの出土品で最も貴重なものは銅鐃の鑄型

です。その鑄型を発見した。

D 銅鐃の鑄型とは貴重な発見だ。東九州には今日までそんなものは発見した例がないので、国宝級のものと云い得るのではあるまいか。何時頃発見したのですか。

B 大体大正の初頃の事だつたと記憶する。実はその石を拾つて、後から取りに行く積りで其処に始末をして置いていた所、後から見た時には、いくら探しても発見出来なかつた。誠に残念な事をしたと思う。

D その石の質は、どんなものだつたでせう。阿蘇熔岩に類するものだつたでせうか。それとも。

B 石の質は、大体砂岩のようなものだつたと記憶する。

D それは広サキのものだつたでせうか。

B そうではなかつた。いや実は先の方が折れていゝめ、その広。狭はわからなかつた。

D 今までの出土例からしてやはり広サキのものと思う。何とかしてその鑄型を探し出したいものです。史談会の方々の御活躍を期待します。

司会 彌生式土器の出土地と古墳との関係は、どうなつていますか。

B 経塚原には管玉。勾玉も出ます。やは

り両者は関係があるようです。(勾玉を見せる)

E 上オサカからは狭い地域に沢出土器の破片が出る。古墳も前方後円墳が二つある。管尾にもある。

B 網の錘も出土した。大野川等で漁りをしたものと思われる。

D それは日向との関係があるものと思うが。

E 三重には律令制の三重駅があり日向と直接通じていた。そうした駅の関係を取り上げる必要がある。

F 緒方川の上流に横穴古墳があり、原尻川の流域にも朱を塗ったものがある。

E 駅の近くのタツガハナには、地下式墳があり、これにも朱を塗つてある。

D それは珍らしい。玄室がありますか。

G そのような遺跡は地質とどんな関係がありますか。

E そうですね、大体大野川からはなれて居り、阿蘇熔岩台地等とも関係があるようです。

B 経塚の勾玉は某氏が持つて帰っている勾玉の一部と金冠は保管している。其他腕輪、鉄鏃、クシロも出たが、発見者がくれなかつた。見取図は取つてある。青銅製の

ものです。

E 農事試験場の分場附近から貨幣が出る。その附近から骨ツボも出て、試験場に保存してある。

B 貨幣は室町時代のもので宋銭らしい。

司会 地図を見ると、今まで指摘された縄文・弥生・古墳の遺跡は、大体三重盆地の周辺となつてゐる。三重の歴史は盆地周辺の台地からはじまり、農業が行われるようになって、次第に盆地に下りて来たという事になると思う。つまり石器時代から三重盆地附近が、一つの文化の中心であつた事は確かだと思ひます。では次に律令時代に移ります。

律令時代の三重

司会 律令時代の行政区劃は？

B 大野郡の郷は三重郷・緒方郷・大野郷・井田郷等があつた。

司会 律令時代から中世にかけて、一般の郷土史ではプラランクのものが多くがその方面の史料はどうです。

E 三重駅の事から考える以外にない。

D 荒田駅から三重に通ずる官道があつたのではないか。荒田には駅馬の数が多い。そうするとこゝが由布駅に通ずる道と、三重駅に通ずる道との分れ目になつてゐるの

ではあるまいか。井上通泰博士は日田—玖珠—三重かとしてゐる。

司会 三重駅からその他の駅との連絡はどうなつてゐたでせうか。

B・D・E 三重駅を中心として高坂駅(国府附近)に通じ、西は直入駅に、南は小野駅(小野市)を通じて、日向国長井駅に通じたものであらう。高坂駅から南の丹生駅に通ずるが、丹生駅は国府からの距離からすれば白杵附近ではあるまいか。そうすれば今日の様に、三重駅から丹生駅へ連絡路があつたものと想う。古代の三重駅は、交通的には一つの中心的位置を占めてゐる事が判る。

F 三重には昔は市があつたらしい。二十八日は市日として今日も田中から人が出る。その起源は何時頃からでせうか。

司会 はつきりした事は言えぬが、やはり一般的に見て中世以後ではないか。右のような交通上の中心的位置から、市が開けたものと思う。次に三重郷と大神氏との関係はないでせうか。

G 私の姓は神志那と云うが、祖先の墓は皆大神となつて居り、名前には皆惟の字がついてゐる。

司会 姥嶽大明神と大神氏の伝説について

は、どう考えられますか。

D 大和では大神と書いて「オホミワ」と訓み、これとは訓み方が異なるが、大和の大神神社にも同様の伝説がある故、やはりその伝播したものではあるまいか。

司会 大神系図に大神惟基が大神庶幾（国守大神良臣の子）の子で、しかも弘仁二年（八一）に生れ、大番役を勤め、從四位下で豊後守に任ぜられた等見えるが、これはあらゆる点から見て鎌倉時代以後の偽作と思う。宇佐の大神と大野の大神は関係あるものと思うが。

H 宇佐の方では大神に「オホミワ」と仮名がふつてある。

K 宇佐では大神社とある。その所領関係から見て、宇佐の大神と大野の大神とは関係があるものと思う。

司会 大野郡にある八幡様の分布や系統を調べる必要があると思うが。

B イチベタや菅生に八幡がある。

D 八幡様も一がいに宇佐から勧請されたとは言い得ず、サツマの方から来たものもある。その系統を調べる必要がある。司会 大分附近や菅生附近には石佛が多いが、これは宇佐所領と関係があるのではないか。元町石佛、曲石佛もみな宇佐の所領

勝津留や津守庄、勾別府にある。国東半島にも石佛が多いが、これも宇佐八幡と関係がある。

K 豊後の石仏の系統は、中央文化と宇佐文化との二系統があるのではないか。

司会 神社領の場合は、荘園の統治の爲に本社に分靈を勧請して末社を荘園内に勧請した。こうした関係で八幡が多いものと思う。

K 肥後国に伊倉別府と云うのがある。これは八幡様をもつてきて免税の特権を得ている。不輸権の獲得が神社の勧請によつて行われている事は興味ある事だと思う。

司会 大野郡で注意すべきは、牧に関してである。須從三代格天長三年の条に、「大野直入而郡は獵騎の兒を出す、兵において要と爲す」とある。大野郡に平安末期頃早くも大野氏等の武士が活躍するのは、これと関係があるものと思う。

D 天平年八年に直入郡に牧馬檢校がいた事が記録に見える。直入郡に官牧のあつた事は確かだ。

E 町史編纂について、地名を調査している。牧についても調査中だ。

K 長者伝説についてお話し下さい。
L (速記不十分につき略)

D 炭焼小五郎は山師ではあるまいか。
L それに関してタタラという地名もある。

大友時代の三重

司会 大友能直入国領の三重はどんな状態だったでせう。

B 図田帳には「三重郷百八十町新田陸奥守殿」とある。後まで郷を称する以上、国領として比較の後までつづいたものと思う。司会 新田陸奥守というのは三重郷の地頭であろう。図田帳の記述が正しいかどうかを証するものとして、新田氏に関する古文書はないか。

B 全然ない。金石文中に名の名前は出る上村、中村、下畑村等とある。

C 金石文で最も古いものは何時頃ですか
B 文永十一年のもので、イチベタ八幡境内にある。新田氏に関する文書が全然ないのは、彼の本領でなかつた為、代官を置いた事等によるのではあるまいか。

司会 南北朝期に入つて三重郷は大友氏の所領となつた事は確かだ。大友文書員治三年の大友氏時所領注進状に「同国三重郷」とある。地頭職が守護大名としての大友氏の所領になつていたものと思う。蓮城等の記録等から、中世の三重の歴史は判らぬだ

ろうか。

L 寺領は今四段、昔は十町あったという。現在門前と云う地名が、はるか向うの方にある。かつては相当の境内だったと思う。司会 緒方の方も居られるので、それに

K 宇佐大鏡では、緒方郷に宇佐宮の封戸五十戸があつた。これが後に緒方庄となり宇佐の庄園となつたものだ。

(以下頁数及び速記録の都合で省略した。司会者及び発言者諸氏の御宥恕を御願いたします。尙本座談会について多大の御奔走を頂いた伊東東氏、土生米作氏、内山蓮城寺住職大編慈長氏及び三重町当局に深い感謝の意を表します。)

会報

初詣と史蹟廻りの会

一月三日NHKと共催で、寒田八幡社の初詣でをかね、滝尾・曲・敷戸・寒田八幡秋岡常樂寺・高瀬石仏等史蹟の見学を行った。参会者約三十名で、極めて有意義に終つた。

南大分の歴史を語る会

一月十八日午後一時から南大分小学校で

「南大分の歴史を語る会」として講演と座談会を行つた。講演者名および演題左の通り。

- 一 古代の南大分 賀川 光夫
 - 一 国府時代の南大分 渡辺 澄夫
 - 一 一条里制について 兼子 俊一
 - 一 南大分の古文書 中野 幡能
 - 一 大給時代の南大分 久多羅木儀一郎
 - 一 明治初年の百姓一揆 立川 輝信
 - 一 近代の農民意識 富来 隆
- 学校側の熱心な御奔走のお蔭で参会者六百名を超える盛況で、さながら大講演会の観があつた。講演終了後、有志の座談会が行われ、一同隔意なく互いに質疑の応答があつて益する所多大であつた。

雑誌編輯についてのお知らせ

○会費納入について 毎回の事ですが、未納の方は至急お願い致します。今回からは未納の方には雑誌送附は見合せる事とし、納入されてから送本します。若し納入されず脱会される方は、既刊分を会に御返品下さらば幸です。

○投稿について

①枚数や期限については特に規定を設けませんが、大体十五枚を限度とし、時によつては多少増加しても差し支えあ

りません。

- ②原稿は出来るだけ楷書で、明瞭に。
- ③句読点をはつきりつけること。
- ④漢字は出来るだけ平易にし、当用漢字によられたい。
- ⑤原文引用の際は己むを得ませんが、時に誤りと思われ、また意味不明のものがあつて、校正ごとに編輯子をなやまします。特に御協力御願いたします。
- ⑥註のつけ方や原文引用の仕方は、普通の学術雑誌の方法によられたく、これも雑誌編輯上大きな障碍です。
- ⑦校正は最寄りの方には一度は投稿者に校正を御願いたしますが、それ以上の事や、遠地の方のは当方で致します故、御諒承下さい。

立川委員の災難

○本会常任委員立川輝信氏は、去る三月廿六日不幸火災に遭い、家屋の一部と蔵書の重要部分を焼失されました。本会より早速居合せた数人がかけつけ、御見舞を申し述べました。右御知らせ致します。